

川崎市外国人市民代表者会議
(第8期 第1年 第1回 第1日)
議事録

1 日時 2010(平成22)年4月25日(日) 午後2時～5時

2 場所 川崎市国際交流センター

3 出席者

(1) 代表者 26人

王平、許可欣、耿輝、鈴木新琴、陳曦、安栄一、金祥和、鄭昭辰、朴昌浩、高橋口サ、那谷屋ジンキー、中森ジュリアみどり、ヴェムリルチカ、エロックハリマー、モツハマドアスリ、ダシドローヴ マラルゴ、アディカリ スディーブ、タオワン キッティチャイ、オパンゴデケ、オカンボス エルナン、生出オリエッタ、柳澤アンナ、コロンツイカロール、エドモンドダンカン、呉潔、チャートデビト

(2) 事務局

三浦副市長、上野室長、阿部担当部長、西山担当課長、髙田担当課長、小川課長補佐、湯川職員、西口専門調査員、

4 傍聴者 21人

5 会議次第(公開)

(1) 開会のあいさつ

(2) 事務局説明

(3) 委嘱状の交付

(4) 副市長あいさつ

(5) 事務局の紹介

(6) 代表者の自己紹介

(7) 議事

正副委員長の選出

年間日程の確認

(8) 事務連絡

(9) 閉会

6 議事等の経過

【開会】

(開会し、事務局から配布資料の説明)

(委嘱状交付)

【三浦副市長の挨拶】

三浦副市長「川崎市は、1924年に発足した、86年たったまちです。昨年は人口が141万人を超え、日本の大都市の中で8番目に大きな都市になった。その141

万人の中でも、外国籍の方が32,000人で、毎年増えている。この代表者会議も15年になる。日本で最初にこういった仕組みができて、今回は第8期目ということで、それぞれ地域社会でともに生活していく仲間として、ぜひ様々なご意見をいただきたい。皆さんが住みやすいまちというのは、川崎の市民にとって住みよいまちになるので、活発なご意見、ご提案をいただきたい。先般、阿部市長のほうに第7期の活動報告をいただいた。私どもも、こういった報告を受けながらさらに川崎を住みやすいまちにしていきたいので、よろしく願いたい。この機会にもっともって川崎を知っていただくことを期待している。」

(拍手)

【代表者の自己紹介】

王委員「中国の出身で、来日17年になる。たまたま川崎駅で代表者募集の広告を見て応募した。代表者会議のメンバーになって、本当に嬉しい。これから2年間、皆様と一緒に頑張っていきたい。」

許委員「出身地は台湾。日本に来て9年目。子どもが1人いる専業主婦で、周りのことに関心を持っていて、代表者に応募した。日本人と外国人と互いが認め合い、尊敬し合える地域をつくりたい。」

耿委員「中国から来た、耿輝と申します。名前の字は耳偏に火。明るいという意味で、下は輝くの輝。明るい、輝くで、頑張ります。最近いろいろな新聞で外国人の参政権について議論が出ている。これから何十年かかるかもしれないが、外国と日本のいろいろな問題と一緒に参加したい。」

鈴木委員「中国から来ました。福建省といえば、ウーロン茶の産地。第7期に続き、第8期にまた代表者になって、皆さんと一緒につき合うことを、楽しみにしている。」

陳委員「中国の北京から来ました。日本に来て12年になるが、生活しやすい川崎をつくりたいと思い、代表者に応募した。選ばれてとてもうれしい。この機会だけでやめるのではなく、少しずつ解決していく気持ちで、2年間で皆様と一緒に頑張っていきたい。」

安委員「在日朝鮮人の安栄一と申します。今まで諸先輩方が15年間代表者会議に参加された跡を継ぎたくて、今回参加した。また在日子弟の未来にいろいろな差別等、目に見えない差別等をなくしながら、多文化共生ができる川崎市政の一つでも寄与できればと思う。」

金委員「韓国籍で、子どもが2人いて、朝鮮学校に通っている。自分自身は幼稚園から大学まで日本の学校を出ているが、朝鮮学校というところは、非常に日本の方からすると偏見があるところだと思っている。中に入ってみると、いろいろな違いがわかってきて、朝鮮学校に対する偏見等を取り除くことを一つのきっかけとして、日本と他の在日外国人との共生のきっかけをつくれればよいと思う。」

鄭委員「専修大学経営学部3年に在籍。この会議は友達のカッティチャイ君に紹介してもらい応募した。代表者になれてうれしい。高校を韓国で卒業してから、直接日本の大学に入学し18歳の時から日本で生活して、今年で3年目になる。大学で韓国人留学生会という会に所属しており、外国人留学生の抱えている問題点などを皆さんと話し合いたい。」

朴委員「今週で38歳になり、1児、3歳の娘の父。外国人代表者会議は15年前から興味があって、今緊張している。日本の小・中学校、高校と出て、せっかく皆さんの税金で委員になったので、外国人の生活の問題、福祉の問題など、私も精いっぱい勉強して頑張りたい。」

高橋委員「日本に来て22年になった。子どもは2人、普通の母親です。私は外国人労働者の現場の問題について、話したい。」

那谷屋委員「日本にきて22年になる。4人の子どもがいる。私の住んでいる中野島は外国人が多く、いろいろな問題があって、みんなの役に立ちたいと思い、応募した。」

中森委員「第7期から参加していて、前の第2期にも2年間、参加したことがある。今回第8期で、新しいメンバーと一緒にいろいろ考えて、川崎をもっと住みやすいまちにしたいと思っている。」

ヴェムリ委員「今年で来日して11年目になった。子どもは2人で、家族4人で毎日頑張っている。この外国人会議のポスターを、2年前に子どもの通学時に見て応募したが、選ばれてとてもありがたく、責任重大な複雑な気持ち。自分が暮らしている社会に、どのように役に立てるか、言うばかりではなくて、相手の話、意見と、自分の経験と相手の経験を聞きながら、広い心を持ち頑張っていきたい。」

エロック委員「9年前にインドネシアから来日したが、川崎市に住んで、今年で5年目になる。第7期のときに2年間教育文化部会で話し合ったが、今回また第8期に応募した。第8期のときには教育の面と同時に生活の面でもいろいろ問題があるが、もし問題がなかったら労働者の問題について話したい。もう一つの応募したきっかけは、代表者会議をもっといろいろな人に、いろいろな形で知ってほしいという気持ち。ぜひこの第8期の代表者会議を、もっと広く知ってもらうために頑張っていきたいと思う。」

モツハマド委員「第7期に引き続きのモツハマド・アスリと申します。現在大学4年生。2年間よろしく願ひいたします。」

ダシドーロウ委員「モンゴルから日本に来て、今年で2年になる。今は主婦だが、日本語を勉強しながら、神奈川県モンゴル人協会・日本というNPOの活動をやっている。2年前来日時は、日本語が余りわからず、日本の社会と日本の文化に触れたり、日本人とつながる機会もなかった。ごみ捨ての方法から区役所の手続などわからないことがたくさんあり、誤解したり困ったりすることがたくさんあった。私は自分と同じような人の力になればと思い、代表者会議に応募した。応募のもう一つの理由は、外国人の中で知識と技術が高い人たちがたくさんいるので、そういう人たちを活用して、川崎市にコミュニティビジネスとか、ボランティア活動にうまく参加できる場があるといいと思い、そのテーマで考えていきたい。」

アディカリ委員「ネパールから参りました。川崎市在住6年目。来日して10年目になる。私は代表者会議第7期から引き続いて、第8期も応募した。第7期のときには、医療に関することを市に提言する部会に参加し、提言のまとめを頑張った。今回応募した理由は、私は今日本で普通のサラリーマンをしているが、これから日本では今までにないほど外国人が住むことになる。それで今まで考えていないパターン的人口が増えると思う。サラリーマン的な考え方の問題と、市を含めて

国もこうやったほうがいいのではないのかということを経後の提言につなげた
い。」

タオワン委員「タイ出身で、今大学3年生。来日して川崎市に住んで、4年目になる。
第7期で、いろいろな面で勉強になったので、また引き続き第8期に応募し
た。」

オパンゴ委員「国はコンゴ民主共和国。日本に来て31年になる。年は51歳。だから
自分の国より日本のほうが長い。川崎では25年ぐらい住んでいるので、自分の
国というより川崎の外国人市民として、これからも生活していく中で、もうちょ
っと楽しいまちを皆さんと一緒につくっていきたい。」

オカンボス委員「アルゼンチンから来た。来日6年になるが、最初から川崎に住んでいる。
この会議に応募したきっかけは、この町で暮らしてきた経験で困ったこと理解で
きないこともあった。自分の経験とみんなの経験を聞きながら、解決方法を話し
合いたい。」

生出委員「日本は長くて、30年になる。今ちょうど時間があるので、この長い経験が役
に立ったり、何かできればいいと考えている。選ばれてとてもうれしい。みんな
が異国の小さな世界からここに集まって、とてもうれしい。このチャンスを与え
てくれて感謝している。」

柳澤委員「ロシア出身。選ばれると思わなかった。日本に来て10年になるが、川崎に
住んで9年目。子どもは2人いる。川崎は元気なまちで、若い人や子どももたく
さんいる。国際理解教育や協力、子育ての支援について話したい。代表者になっ
てうれしいが、責任も重いと思う。」

コロンツイ委員「スロバキアから来た。12年前に来日し、大学を卒業して、今、
民間企業でサラリーマンをやっている。代表者へ申し込みのきっかけは、来日1
2年でも、川崎市民にはなったばかり。革命を起こすつもりはないが、
コミュニティサービスに貢献したい。身近なところから、外国人が住みやすくす
るためのことと、外国人と日本人の互いの理解、ギャップを縮めさせることに貢献
したいと思ひ、応募した。選んでもらいとてもうれしい。」

エドモンド委員「オーストラリアの出身。川崎との関係は19年ぐらい。その間7年間
は、自分の国の飛行機会社で働いた。川崎が大好きで、このグループに入っ
た。」

呉委員「カナダ国籍だが、もともとは北京出身。来日14年目になる。今、川崎市教育
センターの日本語教師を担当していて、中の1人の先生が私を紹介してくれた。
応募して受かったのは、とてもうれしい。子どもは2人いて、ふたりとも川崎市の
公立の小学校を卒業した。これから川崎市の小学校、中学校、高校の、いかなる
外国人にも住みやすくなるよう、教育にも、とても興味を持っているので、
教育面にも貢献したい。」

チャート委員「イギリスから来た。川崎市に住んで5年、日本は6年強になる。この
会議に応募したきっかけは、2006年にオープン会議に参加して、応募しよう
と思ったが、その時期に娘ができたので、今期になって応募した。この代表者
会議で、川崎市に住んでいる外国人が、どうやって簡単に日本の社会と文化に溶
け込めるかについて話し合いたい。」

(三浦副市長を囲んで記念撮影の後、休憩をはさんで再開)

【正副委員長の選出】

< 仮議長の選出 >

上野室長が仮議長を務める (拳手全員) 承認

< 会議の成立 >

上野仮議長「川崎市外国人市民代表者会議条例第8条に基づき、今日は26人全員出席しているので、会議が成立した」

< 正副委員長の役割 >

事務局が資料に基づき、正副委員長の選出に関する確認事項について説明。

< 採決 > 候補者の決定方法

事務局案 - 立候補者、推薦された人、両方が候補者になる。ただし推薦された人は、辞退できる。(拳手全員) 事務局案承認

< 採決 > 委員長候補者の選出方法

事務局案 - 候補者が1人のときには、拳手で承認をする。候補者が2人以上のときには投票で選ぶ。(拳手全員) 事務局案承認

< 採決 > 投票の方法

事務局案 - 無効票は次の場合。何も書かれていないもの。複数の名前、番号が書いてあるもの。書かれた内容が読み取れないもの。名前と番号が一致しないもの。

投票して、最高得票者、一番票の多かった人が、過半数の票をとっている場合、そのままその候補者が決定。最高得票者の人の票が過半数になっていない場合は再度、もう一度上位2人の投票を改めて行う。

(全員拳手) 事務局案承認

< 採決 > 副委員長の選出方法

上野仮議長「副委員長の選出方法も委員長と同様でよいか」(拳手多数) 承認

< 委員長選出 >

上野仮議長「委員長として立候補される方は、手を挙げて。」

立候補 - オパング・デケ

推薦 - エロック・ハリマー (承諾)

タオワン・キッティチャイ (辞退)

アディカリ・スディーブ (辞退)

上野仮議長「委員長選出するに当たり、候補者二人から、それぞれ委員長になるに当たってということでスピーチをしてもらい、それから投票する。」

オパング委員「私は、第4期の経験があります。第5期には副委員長をしました。川崎に長く住んでいて、これからも住んでいきたいと思っているので、その中で本当に外国人市民として、皆さんと一緒に考えながら、暮らしやすい町にしたいと思っている。」

エロツク委員「私はデケさんと同じで、第7期のときに副委員長をしました。そのときに委員長さんやほかのメンバーたちからも、いろいろなアドバイスをいただきながら頑張ったので、もし委員長になったら、前回同様皆さんからのアドバイスも、ぜひ引き続きいただきたい。もう一つ、この代表者会議は日本全国で初めてのことであり、いろいろなところで川崎はすごいと言われるが、まだ会議の委員長は、今までずっと男性である。私はまだ自分の子どもはいないが、NPOで教育関係で、ボランティアとして頑張っているので、少しでも教育のところで役に立てればと思う。革命を起こすつもりはありませんが、小さなことから頑張っていきたいので、新しい歴史を川崎で作りませんか。」

< 投票 >

上野仮議長「投票は1番オパングさん、2番エロツクさんとする。」

1番 (11票)

2番 (15票) エロツク委員が委員長に決定

< 副委員長選出 >

推薦 - オパング・デケ (承諾)

金祥和 (辞退)

エドモンド・ダンカン (承諾)

コロンツイ・カール (辞退)

耿輝 (辞退)

朴昌浩 (承諾)

上野仮議長「先ほどと同様に、スピーチをお願いしたい」

オパング委員「やはり皆さんと一緒に、この川崎の町をよくしていきたい。」

エドモンド委員「私の話し方は結構ストレートですが、それがオーケーならよろしくお願いします。」

朴委員「できればさせていただきます。」

< 採決 >

上野仮議長「1番オパング・デケさん、2番エドモンド・ダンカンさん、3番朴昌浩さんとする。」

1番 (14票) オパング委員が副委員長に決定

2番 (8票)

3番 (4票)

上野仮議長「それでは委員長、副委員長が選出されたので、二人にそれぞれ委員長あるいは副委員長として、ごあいさつをいただきたい。私はここで議長を解任とさせ

ていただく。」

エロック委員長「皆さんありがとうございます。今日から委員長をさせていただきます、インドネシア出身のエロック・ハリマーと申します。前回副委員長をやったときの委員長が一番大変だったと言ったそうですが、その気持ちがとても私にはわかりません。今期は、きっといろいろ失敗しながら、皆さんからの力をお借りして、進めていきたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。」

オパンゴ副委員長「副委員長に選ばれました、オパンゴ・デケです。皆さんと一緒に、いろいろなことを考えながら、みんなでいろいろなアイデアを出し合って、一緒にやっていきたいと思っております。それと委員長のサポートもやりたいと思っております。よろしく申し上げます。」

【年間日程の確認】

事務局小川課長補佐「2010年度川崎市外国人市民代表者会議開催日程（案）は資料2にある。年間8回の会議およびオープン会議の日程が案となっている。」

エロック委員長「事務局からの提案について、何か意見はあるか。」

エドモンド委員「この日程は、どうやって決めたのか。」

事務局小川課長補佐「月に1回程度行うということで、4月25日をスタートして、大体1カ月刻みで日程を組んでいる。連休が入った場合にはなるべく外していることと、この時点でわかっている大きなイベント等は、なるべく避けるように設定している。」

エロック委員長「他に意見や質問がなければ、拳手で承認をとりたい。事務局からの案に賛成する人は、手を挙げて。」（拳手多数）承認

エロック委員長「これで第1回第1日目川崎市外国人市民代表者会議を終了する。」